



日本独自の釣りを楽しむ。



TANAGO

日本の釣りの対象魚としては最も小型で体色の美しい魚種で、サイズは最大のもので10cm程。専用の竿も針も極小で、小さい魚を釣る程、「粋」とされている。最近では生息域が減少し、保護されている場所もある。晩秋から冬がシーズン。



AYU

初夏の清流の風物詩アユ釣り。1年魚で成長につれて食性が変化する。夏頃になると一定地域のエサを独占してナワバリを持つようになり、その特性を生かした友釣りはアユ釣りの醍醐味でもある。新鮮なアユを炭火で焼いた塩焼きは絶品の極み。



HERABUNA

初心者でも容易に楽しめる釣りである反面、ベテランとの釣果の差が非常に大きく出るヘラブナ釣り。道具面でも竿の種類、仕掛け、浮き、エサ調合の秘訣等々、繊細でシステムチックな要素が多分に存在し非常に奥が深い魅力がある。



MASU

トラウトは日本で人気の釣りのひとつで、特に北海道でのレインボートラウト (NIJIMASU) やイトウ (ITO) 釣りが盛んで、ヤマメなど日本固有の鱒類も生息している。また、カナダとも結びつきがあり、現在日本にいるレイクトラウトは、オンタリオがルーツとなっている。



GURE

波涛だけの荒磯での磯釣りは、絶壁を素手でのぼるフリークライマーや、雪崩の起きそうな斜面を滑ってくるエクストリームスキーと近いものがあるかもしれない。潮と流れを読み、タナを模索し、針と糸と浮きとエサをアジャストさせていくグレ釣りはまさしく磯釣り NO1 である。



MAGURO

TUNA。パワー・サイズ・食味と三拍子揃っているマグロは、日本では昔から不動の人気を誇る魚である。スタンディングで巨大マグロを掛けてからの駆け引きは、釣りというよりもはや格闘技に近い感覚を持つだろう。近年は東京周辺でも両型を狙えるようになってきた。

